

COVID-19蔓延下における 摂食・嚥下障害患者 への対応

東京都保健医療公社荏原病院
摂食・嚥下支援センター

新型コロナウイルスは飛沫や接触感染が主だが・・・
エアロゾル（5マイクロメートル以下の粒子）に吸着
することで長時間空間を浮遊し感染リスクが高まる

エアロゾルを発生する手技（以下AGP）

=咳やくしゃみを誘発する行為

- 誤嚥のリスクを伴う摂食訓練、
- 口腔・鼻腔・咽頭・気管内の吸引処置
- 内視鏡検査など



⇒**摂食・嚥下障害診療の多くはAGP!**

AGPに対しては標準予防策に加えた付加的予防策が必要!

飛沫・接触に対する標準予防策

飛沫感染対策：ウイルスを含む飛沫が、眼・鼻・口の粘膜に付着することを防ぐ

- 医療従事者は、顔面を保護するPPEを着用
(サージカルマスク, ゴーグル・アイシールドなど)
- 患者もサージカルマスクを着用



接触感染対策：ウイルスが付着した手が、眼・鼻・口の粘膜と接触するのを防ぐ

- 医療従事者は手袋やエプロン・ガウン、マスクなどのPPEを着用
- 患者もサージカルマスクを着用
- 周囲とは1.5m以上の距離をとる。



摂食・嚥下障害診療と感染対策

- 摂食・嚥下障害診療やケア
 - ～近接している・マスクを外す
 - ⇒飛沫感染・接触感染のリスクは高い
- 食事介助が必要 = 摂食・嚥下障害が「ある」
 - むせが強い場合は食事介助もAGPの可能性

飛沫・接触に対する標準予防策



目の保護（ゴーグル：作業用を消毒）

教科書的には
飛沫対策：
フェイスシールド
（目の保護）
サージカルマスク
（鼻口の保護）
接触対策：
手袋・ガウン



手指衛生の徹底：
出ているところを洗う
着衣：まめに交換
風呂・シャワー

AGPに対する付加的予防策

① N95マスクを着用

シールチェックを行う

N95は1日1枚

② 目の防護具は必須

ゴーグル or フェースシールド

③ 非浸透性のガウン or エプロンを着用

④ 十分に換気される部屋で手技を行う

⑤ 患者および周囲の環境表面へ接触した前後、

PPEを外した後は手指衛生を遵守



摂食・嚥下障害診療に要するPPE

E-PPE: sPPEに眼の保護（E）を加えたPPE

「サージカルマスク、手袋、フェースシールドorゴーグル」

EB-PPE: sPPEに眼の保護（E）身体の保護（B）を加えたPPE

「サージカルマスク、手袋、フェースシールドorゴーグル、
ガウンorエプロン」

（エプロンの使用後は上肢露出部皮膚を洗浄のこと）

full-PPE: エアロゾル感染に対応した予防策

「N95マスク、帽子、手袋二重、フェースシールド±ゴーグル、
不浸透性長袖ガウン」

* 頭部の露出保護：手術用帽子を装着。頭髪の露出に注意。

蔓延地域のAGPのPPEの選定法

新型コロナウイルス感染状況による区分

- ①新型コロナウイルス感染と診断あるいは疑い例
(臨床症状ありあるいは感染者との濃厚接触あり)
- ②新型コロナウイルス感染未確認例(臨床症状なし)
- ③新型コロナウイルス感染陰性、あるいは陽性と診断されたが陰性確認or症状消失後 **2週間経過した例**

	確定・疑い		未確認		陰性・確定後 陰性化2週	
AGP	あり	なし	あり	なし	あり	なし
PPE	full PPE	EB- PPE	EB- PPE	E-PPE	E-PPE	E-PPE

E-PPE : サージカルマスク + 手袋 フェイスシールドorゴーグル



EB-PPE : サージカルマスク + 手袋 フェイスシールドorゴーグル, ガウンorエプロン



full-PPE : N95マスク+手袋
フェイスシールド±ゴーグル,
ガウンorエプロン



間接嚥下訓練の留意点

- 病棟で実施可能な訓練
 - = 直接的な接触や発声を伴わない訓練
 - 嚥下体操
 - 頸部拳上訓練 など
- 病棟で実施すべきでない訓練
 - = 口腔内に触れたり、声や息を出すような訓練 **(AGP)**
 - 咳払い
 - アイスマッサージ
 - 氷片なめ
 - 舌の出し入れ
 - 特に大声での発声練習 など



★疑問点はお気軽にSTへ！



リハビリ受付2720

食事時の感染対策

食事場面は
感染リスク大！

ポイント

むせこみや会話で飛散した唾液を かぶらない！！かぶせない！！

シールド付マスク

エプロン

手袋

- ① 患者の横から介助する
- ② 話さない・話かけない
(氏名の確認など最低限のみ)
- ③ 蓋は閉めたまま配膳
(食べるまでの間に落下菌を防ぐ)
- ④ 向かい合って食べない
- ⑤ ナースステーションで食べない
(ナースステーションでの喫食がやむを得ない場合は、壁に向くなどの工夫をする)



食事介助前後の
手洗い・手指消毒 の徹底！！

むせ+食後口腔
ケア要 = full-PPE



COVID-19陽性・疑い患者に対する口腔ケア

full-PPE : N95マスク、フェイスシールド、ガウン、グローブ、キャップ

口腔内観察 (汚れ具合・傷の有無だけは、確認)

ケア時間は
5分

歯がある

歯ブラシ&スポンジブラシと
保湿剤でケア

スポンジブラシは
単回使用で破棄

OR

歯がない

スポンジブラシと
保湿剤でケア

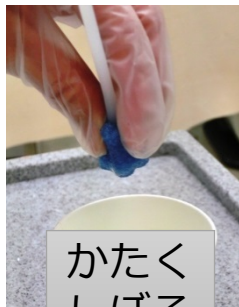
スポンジブラシは
単回使用で破棄

水は極力
使用しない

患者の口腔内から
なるべく距離をとる

時間がない時は、歯よりも
舌・粘膜ケア優先

ケアの最後は必ず
吸引管は清拭して汚れを回収
極力使用
しない



かたく
しぼる



ベッドアップの
角度の工夫



舌のケアは
必ずおこなう



歯の外側は湿ったガー
ゼで清拭して時間短縮
内側はスポンジブラシ
で清拭
(指は入れない)



口腔内観察

(ケアが未完了な部分を次のスタッフに引き継ぐ)

吸引：エアロゾル発生手技（AGP）

- 咳や嘔吐反射による飛沫を予測
⇒ **正面から処置を行わない**
- **外気との換気**を推奨する
- 口腔内や気管切開孔を**覗き込まない**
- 人工呼吸器装着中
⇒ 閉鎖式吸引システムを使用
- 気管切開チューブ操作
⇒ エアロゾルの発生に最大限の注意を
(ガーゼ交換・人工鼻交換・カフ圧
チェックなど)



N95マスク+手袋
フェイスシールド,
袖付きエプロン

しっかり
ガード

咳ばらいをさせるときの注意

むせこんだ時の腹式呼吸や咳払いにはエアロゾルを発生させます。
極力少なくしましょう。
実施する場合は以下のことを注意しましょう。

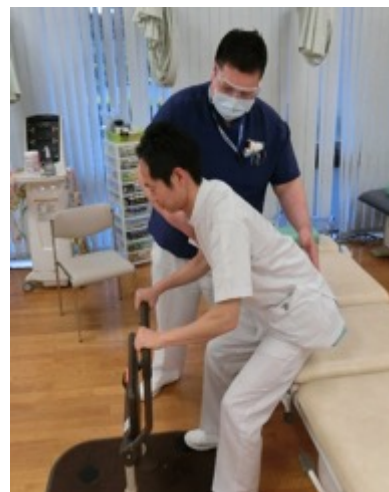
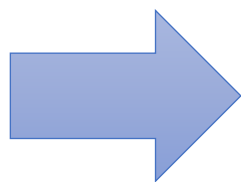


患者の正面に立たない。
マスクやアイガードは外さない。



咳払いをさせるときは周囲に人がいない
こと、ティッシュなどで口を覆うこと

ギヤツジアップや移乗場面で 注意しなければならないこと



嚥下障害の方は急な咳込みや排痰がある場合があります。
特にギヤツジアップなど体位変換の際は痰が
出てくる場合があるので、注意しましょう。
車いすなどへの移乗は、前方からの介助は極力避け、
側方からまたは2人介助で行いましょう。